

山路愛山参考文献目録

—昭和二十一年〜平成十四年—

鈴木 一 正

要旨 本目録は、明治・大正期に活躍した歴史家・評論家・ジャーナリストで、北村透谷との論争（『人生相渉論争』）相手としても知られる山路愛山（一八六四〜一九一七）の参考文献目録の『戦後編』である。収録期間は、昭和二十一年から平成十四年までの五十七年分で、「単行本」「新聞・雑誌・単行本等所収論文」の二つに分け、発行順に並べたものである。

これまで山路愛山の参考文献目録はいくつか作成されているが（付記参照）、網羅的なものは極めて少なかった。本目録では、先行の参考文献目録に未収載の文献を加えるとともに、なるべく現物を確認し、正確を期すことにした。また、先行目録が省略した巻号や副題を加え、単行本所収の情報も付加した。いわば本目録は、先行参考文献目録の増補改訂版とすべきものである。

凡 例

- 一、本目録は、明治・大正期に活躍した歴史家・評論家・ジャーナリストで、北村透谷との論争（「人生相渉論争」）相手としても知られる山路愛山の参考文献目録の「戦後編」である。
- 一、本目録の構成は、「1単行本」「2新聞・雑誌・単行本等所収論文」から成る。
- 一、収録期間は、副題が示すとおり、昭和二十一年から平成十四年までの五十七年分とした。
- 一、排列は、月単位で発行順に並べた。同月内は、著者名の五十音順とし、雑誌等で同時に複数の論文掲載の場合は、その掲載順とした。ただし、週刊紙（誌）、日刊紙の場合に限り、同月内の後に日付順に並べた。
- 一、タイトルは、原則として目次ではなく、本文のものを採用した。副題は、なるべく採用するようにしたが、所収書名の副題は省略した。なお、副題の表記は、記載のとおりとした。
- 一、雑誌等の巻号は、なるべく採用するよう努めた。
- 一、単行本は「1」、雑誌等は「2」で示し、叢書名・特集名等、補足的事項は（ ）を用いた。また無署名の場合、——で表示した。その他、必要に応じて注記した。
- 一、連載・分載の場合は、一括で記入し、著者名の上に*印を付した。
- 一、原則として、雑誌等の「初出」によった。初出不明、未確認の場合は、単行本所収時のものを記載した。なお、所収書名は、↓「1」で示した。
- 一、文学全集等の解説の場合、どの作品についての解説かがわかるよう収録作品も掲げた。ただし、愛山の作品のみを収めた『山路愛山』（明治文学全集35）、『山路愛山集（一）（二）』（民友社思想文学叢書第2、3巻）等については割愛した。

1 単行本

- 坂本多加雄 『山路愛山』(人物叢書194) (吉川弘文館、昭63・9・10)
佐藤善也 『北村透谷と人生相渉論争』(近代文芸社、平10・4・30)
岡 利郎 『山路愛山—史論家と政論家のあいだ』(研文選書77) (研文出版、平10・11・16)

2 新聞・雑誌・単行本等所収論文

'46 笹川臨風 学友、僚友、其他 (『明治還魂紙』 亜細亜社、昭21・6)

'47 *多賀宗準 山路愛山論 (『読書展望』 第2巻第4、5号、昭22・5、7) ↓復刻版『独立評論4』付録、みすず書房、昭62・12

'48 山路久三郎 父・愛山を語る (『新聞界の先覚(2)』(『信濃毎日新聞』昭23・5・7) ↓『山路愛山集(二)』(『民友社思想文学叢書第3巻』) 月報、三一書房、昭60・2に抄録)

別所梅之助 昔の護教／メソヂスト三派の合同 (『生きんとする意志』 二宮書店、昭23・10)

'49 藤井真斎 山路愛山 (藤井真斎編『近代文学者辞典』 二松学舎出版部、昭24・5)

—— 山路愛山 (日本文学研究会編『近代文学者人名辞典』 白馬書房、昭24・7)

松本新八郎 解題 (『足利尊氏』(『岩波文庫』) 岩波書店、昭24・8)

51 正宗白鳥 愛山と透谷―人生に相渉るとは何の謂ぞ―（論争回顧 その2）〔文学界〕第5巻第5号、昭26・5）

↓『正宗白鳥全集』第7巻、新潮社、昭42・5

52 山岡桂二 明治思想史に於ける国民国家観念について（「ヒストリア」第5号、昭27・12）

53 ―― 山路愛山（戸田貞一編）『新編人名事典』国民図書刊行会、昭28・4）

―― 山路愛山（飯野哲二ほか編）『新撰日本文学辞典』学燈社、昭28・9）

54 白井吉見 人生相渉論争（近代文学論争3）〔文学界〕第8巻第3号、昭29・3）↓『近代文学論争』上巻、筑

摩書房、昭31・10

西田長寿 山路愛山（久松潜一・吉田精一編）『近代日本文学辞典』東京堂、昭29・5）

55 岸本英太郎 解説（岸本英太郎編）『明治社会主義史論』〔資料日本社会運動思想史 明治後期第3集〕（青木文庫

224）青木書店、昭30・4）『現時の社会問題及び社会主義者』を収録

伊藤 整 北村透谷が山路愛山と知り合ひ、「厭世詩家と女性」書く（『日本文壇史』3（悩める若人の群れ）、

講談社、昭30・5）

小坂武雄 編集に容喙せず（電通編）『五十人の新聞人』（電通、昭30・7）『初代主筆 山路愛山』を含む

56 久山 康・小塩 力・隅谷三喜男ほか（座談会）キリスト教各教派の活動（久山康編）『近代日本とキリスト教

―明治篇―』基督教徒兄弟団、昭31・4）創文社発売

中村 哲 竹越三叉のこと（『学鏡』第53巻第10号、昭31・10）

飯田 宏 明治時代の静岡市の英学（『静岡女子短期大学紀要』第3号、昭31・12）↓『静岡県英学史』講談社、

昭42・10

57 中村 完 不知庵・蘇峰・透谷―「人生相渉論争」前後―〔国文学研究〕第15輯、昭32・3)

家永三郎 啓蒙史学 (歴史学研究会・日本史研究会編『日本史学史』(日本歴史講座第8巻) 東京大学出版会、昭32・6) ↓『明治史論集(二)』(明治文学全集77) 筑摩書房、昭40・9

山路愛山 (世界文芸辞典編集部編『新訂 世界文芸辞典 日本・東洋篇』東京堂出版、昭32・8)

58 長谷川泉 透谷の同時代批評 (『明治大正文学研究』第24号、昭33・6) (特集「北村透谷の研究」)

小尾俊人 山路愛山について (山路愛山著、小尾俊人編『史論集』解説、みすず書房、昭33・9) 「主要人名註」
「主要著作目録」を付す

川村善二郎 山路愛山 (京都大学文学部国史研究室編『日本近代史辞典』東洋経済新報社、昭33・11)

59 松本新八郎 山路愛山の「足利尊氏」―歴史と名作5― (岡田章雄ほか編『日本の歴史』5 (北朝と南朝)、月報、読売新聞社、昭34・6)

岩井忠熊 山路愛山 (日本歴史大辞典編集委員会編『日本歴史大辞典』第18巻、河出書房、昭34・9)

内田義彦 知識青年の諸類型 (加藤周一・久野収編『近代日本思想史講座』4 (知識人の生成と役割)、筑摩書房、昭34・9) ↓『日本資本主義の思想像』岩波書店、昭42・10

比屋根安定 山路愛山―「耶穌教界の諸先生」を論じた史論家― (『教界三十五人像』日本基督教団出版部、昭34・11)

60 土方和雄 見失われた忠誠意識 丸山論文 (『近代日本思想史講座』所収) の問題点 (『図書新聞』昭35・3・12)

丸山真男 「忠誠と叛逆」 (『近代日本思想史講座』第6巻) への批評

藤田省三 愛山における歴史認識論と「布衣」イズムの内面的関連―「山路愛山史論集」を読んで― (『歴史学

研究」第240号、昭35・4)

木村 毅 エマァソンの感化〔日米文学交流史の研究〕講談社、昭35・5)「山路愛山と岩野泡鳴」を含む

谷村寿子 山路愛山評伝〈近代文学研究叢書資料第259篇〉〔学苑〕第243号、昭35・6) ↓『近代文学研究叢書』

第16卷、昭和女子大学光葉会、昭36・2

川副国基 明治・大正の文学論争〔国文学〕第5巻第10号、昭35・8)〈特集 近代評論文学の系譜(第二)〉

6) 谷村寿子・松本千鶴子 山路愛山(昭和女子大学近代文学研究室)『近代文学研究叢書』第16巻、昭和女子大学光

葉会、昭36・2)

師井キヌエ 著作年表／資料年表(同右)／谷村寿子 山路愛山(執筆者の言葉)(同右附録)

西村 稠 山路愛山の思い出(諸家の批評)『近代文学研究叢書』第16巻)〔学苑〕第255号、昭36・5)

森 銑三 第16巻むだばなし(同右) ↓『森銑三著作集続編』第5巻、中央公論社、平5・6。「愛山・敏・

秋涛」と改題

笹淵友一 人生に相渉論争〔解釈と鑑賞〕第26巻第9号、昭36・7)〈特集 近代文学論争事典〉

平岡敏夫 透谷と山路愛山〔国文学〕第6巻第11号、昭36・9)〈特集 近代初期の文芸思潮〉 ↓『北村透谷研

究』有精堂出版、昭42・6

川副国基 山路愛山(木俣修ほか編)『人と作品 現代文学講座』第1集(明治編I)、明治書院、昭36・10)

小田切秀雄 『国民之友』グループ、大西祝、中西梅花〔文学史〕(日本現代史大系) 東洋経済新報社、昭36・

11)

島田 厚 明治社会の底辺の友―山路愛山の生涯と思想―(日本の鉾脈)〔思想の科学〕第35号、昭36・11)

⁶² 瀬沼茂樹 近代の文学概念とその変遷——一つの歴史的考察——〔群像〕第17巻第2号、昭37・2〕↓〔近代日本

文学の構造〕I〔明治の文学〕、集英社、昭38・3

内山俊彦 ある中国思想史家——山路愛山について——〔中国の文化と社会〕第9輯、昭37・6〕

加田哲二 史家としての山路愛山〔論争〕第4巻第5号、昭37・6〕

小西四郎 山路愛山 国民的歴史観〔日本の思想家 この百年18〕〔朝日ジャーナル〕第4巻第28号、昭37・

7・15〕↓朝日ジャーナル編集部編『日本の思想家1』朝日新聞社、昭37・9

成瀬正勝 明治の文学観〔佐藤勝編『鑑賞と研究 現代日本文学講座』評論・随筆1〔明治期〕、三省堂、昭

37・10〕「頼襄を論ず」〔汎神的唯心的傾向に就て〕を収録

角田寿子 山路愛山〔同右〕「頼襄を論ず」の解題と解説

平岡敏夫 国民之友と純文学理念〔文学〕第30巻第10号、昭37・10〕

村山吉広 山路愛山の「孔子論」〔漢文学研究〕第10号、昭37・10〕

飛鳥井雅道 山路愛山『明治文学史』〔桑原武夫編『日本の名著——近代の思想』〔中公新書1〕中央公論社、昭

37・11〕

片子沢千代松 山路愛山の基督教観〔第十三回大会研究発表梗概〕〔基督教史学〕第12集、昭37・12〕

平林広人 山路愛山の信州入りと橋本陸之牧師の誘導〔信州の東京〕第60号、昭37・12〕

⁶³ 山岡桂二 山路愛山の歴史思想について〔大阪学芸大学紀要〕A人文科学、第11号、昭38・3〕

* 天野敬太郎 山路愛山〔現代作家書誌案内23、66〕〔日本古書通信〕昭38・5、41・9〕

西田長寿 長野における山路愛山の一面〔みすず〕第5巻第6号、昭38・6〕

橋川文三 山路愛山（大内兵衛編『語録 永遠の言葉』（世界教養全集別巻4）平凡社、昭38・9）

—— 山路愛山と内村鑑三—往復書翰にみる—（『ライト』第10巻第10号、昭38・11）

平岡敏夫 山路愛山の文学—明治二〇年代を中心として—（『国語と国文学』第40巻第12号、昭38・12）↓『北

村透谷研究』有精堂出版、昭42・6。『北村透谷・山路愛山集』（現代日本文学大系6）筑摩書房、昭44・6

真嶋恒雄 「戦ひの人」としての透谷について—「人生相渉論」を中心に—（『国語教育研究』第8号、昭38・12）

⁶⁴山岡桂二 山路愛山の場合（『日本近代思想史に於ける政治と人間』東峰出版、昭39・4）

佐藤善也 透谷の批評と文学観—その文芸批評の基準について—（『国文学』第9巻第7号、昭39・6）（特集

透谷と藤村）

中村 完 「人生相渉」論争（同右）

吉本隆明 日本のナシヨナリズム（吉本隆明編『ナシヨナリズム』（現代日本思想大系4）筑摩書房、昭39・6）

「韓山紀行」「日本の歴史における人権発達の痕跡」を収録。↓『自立の思想的拠点』徳間書店、昭41・10

山路平四郎 山路愛山「懐旧録」解題（『国文学研究』第30集、昭39・10）↓『身辺雑記』山路平四郎、昭51・

2。『山路平四郎古典文学論集 記紀歌謡の世界』笠間書院、平6・1

⁶⁵山田博光 民友社の人々（『国文学』第10巻第5号、昭40・4）（特集 明治文学の問題点）

森 銑三 山路愛山（森銑三編『明治人物逸話辞典』下巻、東京堂出版、昭40・6）

山路平四郎 父・山路愛山のこと（『早稲田公論』第4巻第37号、昭40・6）↓『山路愛山集』（明治文学全集35）

筑摩書房、昭40・10。『身辺雑記』山路平四郎、昭51・2。『山路平四郎古典文学論集 記紀歌謡の世界』笠間

—— 山路愛山（比屋根安定編『新・キリスト教辞典』誠信書房、昭40・8）

松島栄一 解題（松島栄一編『明治史論集（二）』（明治文学全集77）筑摩書房、昭40・9）

大久保利謙 解説／年譜／参考文献（大久保利謙編『山路愛山』（明治文学全集35）筑摩書房、昭40・10）

平林広人 愛山と信濃（同右月報）／西田長寿 愛山・華山・蕨村（同右月報）

西田長寿 独立評論（新聞・雑誌解説）（遠藤元男・下村富士男編『国史文献解説 続』朝倉書店、昭40・11）

山田博光 民友社周辺の文学論争（『苦小牧駒沢短期大学研究紀要』第1号、昭40・12）

⁶⁶*平岡敏夫 山路愛山「明治文学史」（『文学』第34卷第2、4号、昭41・2、4）↓『北村透谷研究』有精堂出版、

昭42・6

山路平四郎 解題（山路愛山著、山路平四郎校注『基督教評論・日本人民史』（岩波文庫）岩波書店、昭41・3）

「愛山略年譜」を付す

松本新八郎 山路愛山『足利尊氏』（エコノミスト編集部編『日本近代の名著―その人と時代―』毎日新聞社、

昭41・7）

木村 毅 歴史と文学―山路愛山（明治大正文学夜話 第20回）（『解釈と鑑賞』第31巻第10号、昭41・8）

—— 山路愛山（高柳光寿・竹内理三編『角川日本史辞典』角川書店、昭41・12）昭51・5に蔵書版

⁶⁷*木村時夫 山路愛山の国家社会主義 明治ナショナリズムの一面（『早稲田人文自然科学研究』第1、2・3

合併号、昭42・3、43・3）↓『日本ナショナリズム史論』早稲田大学出版部、昭48・7

篠崎寿子 北村透谷と山路愛山（『法政大学大学院日本文芸批評史ゼミナール論集』昭42・3）

- 清水 茂 山路愛山著、山路平四郎校注『基督教評論・日本人民史』(書評)『国文学研究』第35集、昭42・3)
- 杉井六郎 明治思想史における自由キリスト教提唱の意味(『キリスト教社会問題研究』第11号、昭42・3) ↓
『明治期キリスト教の研究』同朋舎出版、昭59・6
- 今中寛司 山路愛山の思想とキリスト教―「日本思想史上におけるキリスト教の位置」―(同右)
- 井上 弘 「実」の思想・「虚」の思想―「人生相渉論争」に関連して―(『かながわ高校国語の研究』第3集、昭42・5)
- 平岡敏夫 自由民権思想とキリスト教〔解釈と鑑賞〕第32巻第7号、昭42・6) (特集 日本文学とキリスト教の利・害)
- 中山和子 透谷と愛山―文学概念の対立をめぐって―(『文学』第35巻第12号、昭42・12) ↓『北村透谷・山路愛山集』(現代日本文学大系6) 筑摩書房、昭44・6
- 木村時夫 “国家社会主義思想”の史的構造―山路愛山、高島素之、北一輝の思想を中心として―(『季刊社会科学』第12号、昭43・1) ↓『日本ナショナリズム史論』早稲田大学出版部、昭48・7
- 松島栄一 山路愛山(伊藤整ほか編『新潮日本文学小辞典』新潮社、昭43・1) ↓磯田光一ほか編『増補改訂新潮日本文学辞典』新潮社、昭63・1
- 小沢栄一 「平民史学」の史論―山路愛山―(『近代日本史学史の研究 明治編―一九世紀日本啓蒙史学の研究』) 吉川弘文館、昭43・2)
- 荒瀬 豊 思想集団としての民友社(『東京大学新聞研究所紀要』第17号、昭43・3)
- 今中寛司 山路愛山の国家社会主義史観(『キリスト教社会問題研究』第12号、昭43・3)

岸本英太郎 解説（糸屋寿雄・岸本英太郎編『資料 日本社会運動思想史』第2巻〈大井憲太郎と初期社会問題・明治社会主義史論〉、青木書店、昭43・4）「現時の社会問題及び社会主義者」を収録

藤井松一 山路愛山における帝国主義観（『立命館大学人文科学研究紀要』第18号、昭43・5）↓『近代天皇制の成立と展開』弘生書林、昭57・9

*野山嘉正 「内部生命論」における世界像の変質―透谷試論―（『国語と国文学』第45巻第8、9号、昭43・8、

9）↓日本文学研究資料叢書刊行会編『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）有精堂出版、昭47・1

稲垣達郎 作品解説（伊藤整ほか編『明治思想家集』（現代日本文学全集13）講談社、昭43・12）「日本の歴史に於ける人権発達の痕迹」「徳川家康論二」「徳川家康論二二」「日本現代の史学及び史家」「我が見たる耶蘇教会の諸先生」を収録。昭55・5に増補改訂版。

長谷川泉 明治思想家入門（同右）／角田旅人・佐々木雅発 山路愛山年譜（同右）／佐々木雅発 山路愛山

参考文献（同右）／山路平四郎 『徳川家康』と父愛山（同右月報）／松島栄一 明治思想史の一断面―その概観の中から―（同右月報）

山路平四郎 『徳川家康』と父愛山―内山省三さんのこと―（『現代日本文学全集99』月報、筑摩書房、昭43・

12）↓『身辺雑記』山路平四郎、昭51・2。『山路平四郎古典文学論集 記紀歌謡の世界』笠間書院、平6・

1

'69*小田切秀雄 日本近代文学史把握と透谷観の問題（『文学』第37巻第4〜7号、昭44・4〜7）↓『北村透谷論』八木書店、昭45・4

透谷愛山不可併称／「近代的自我史観」という虚像／「近代的自我史観」という虚像（続）／透谷の弱点と、

透谷論の弱点と

- 笹淵友一 文学自律と文学功用論―人生相渉論争をめぐる透谷と愛山―（長谷川泉編『講座日本文学の争点』5
 〈近代編〉、明治書院、昭44・4）↓『明治大正文学の分析』明治書院、昭45・11
- 前田 愛 近世から近代へ―愛山・透谷の文学史をめぐる―（全国大学国語国文学会監修『講座日本文学』9
 〈近代篇Ⅰ〉、三省堂、昭44・4）↓『幕末・維新期の文学』法政大学出版局、昭47・10
- 紅野敏郎・小野寺凡編 山路愛山年譜／著作目録（『北村透谷・山路愛山集』〈現代日本文学大系6〉筑摩書房、
 昭44・6）「現代日本教会史論」「英雄論」「信仰個条なるべからず」「頼襄を論ず」「明治文学史」「凡神的唯
 心的傾向に就て」「唯心的、凡神的傾向に就て」「詩人論」「荻生徂徠」「誰か大学と戦ふ者ぞ」「進め光明にま
 で」「余は何故に帝国主義の信者たる乎」「七博士に与ふる書」「現時の社会問題及び社会主義者」「唯物的歴史
 観」「北村透谷君」「透谷全集を読む」「夷隅河畔より（抄）」を収録
- 小西四郎 歴史家山路愛山（同右月報）／石丸 久 愛山・透谷論争の前後（同右月報）／谷沢永一 北村透
 谷・山路愛山研究案内（同右月報）
- 平岡敏夫 透谷・愛山評価と近代文学史像（『文学』第37巻第8号、昭44・8）↓『統北村透谷研究』有精堂出
 版、昭46・7
- 平岡敏夫 戦後の文学史像と透谷像（『文学』第37巻第9号、昭44・9）↓『統北村透谷研究』有精堂出版、昭
 46・7
- 平岡敏夫 透谷文学の魅力―地底と天空と―（『文学』第37巻第10号、昭44・10）↓『統北村透谷研究』有精堂
 出版、昭46・7

71 桶谷秀昭 明治散文の思想と文体―鑑三、愛山、透谷、諭吉〔国語通信〕第126号、昭45・5〕↓『凝視と彷徨』上、冬樹社、昭46・9

平岡敏夫 人生相渉論争〔「解釈と鑑賞」第35巻第7号、昭45・6〕↓『続北村透谷研究』有精堂出版、昭46・7

瀬沼茂樹 解説（谷崎潤一郎ほか編『日本の文学』77〈名作集（二）〉、中央公論社、昭45・7）↓『明治文学研究』法政大学出版社、昭49・5

*本多 仁 北村透谷『内部生命論』ノート―蘇峰・透谷・愛山をめぐる―〔「情念」第1〜3号、昭45・9、46・2、9）

北川 透 山路愛山とは誰か1（一）前提的批判〔「犯罪」第2号、昭45・11〕↓『内部生命の砦』（北村透谷・試論Ⅱ）冬樹社、昭51・9

71 鹿野政直 山路愛山『現代日本教会史論』（橋川文三ほか編『近代日本思想史の基礎知識―維新前夜から敗戦まで―』有斐閣、昭46・7）

平岡敏夫 北村透谷『内部生命論』（同右）／佐藤 勝 民友社の文学（同右）

隅谷三喜男 明治ナシヨナリズムの軌跡（隅谷三喜男編『徳富蘇峰・山路愛山』（日本の名著40）（中央公論社、昭46・8））〔「現代日本教会史論」〕〔「近世物質的の進歩」〕〔「頼襄を論ず」〕〔「日本現代の史学および史家」を収録。昭59・9に中公パックス版。〕

————— 年譜（同右）／笹淵友一・隅谷三喜男（対談） ナシヨナリズムの振幅（同右月報）／—————
読書案内（同右月報）

吉田精一 総説(吉田精一・浅井清編『近代文学評論大系』1〔明治期Ⅰ〕、角川書店、昭46・10)「頼襄を論ず」

「明治文学史」〔凡神的唯心的傾向に就て〕を収録

浅井 清 解題(同右)

下沢 剛 浅草鳥越の天文屋敷―山路家文書の紹介―〔史迹と美術〕第49号、昭46・11)

72水上 勲 「人生相渉論争」をめぐる二、三の問題〔同志社国文学〕第7号、昭47・2)

芦沢宏生 山路愛山の思想形成過程と「批判的」精神の構造について〔中央大学大学院研究年報〕創刊号、昭

47・3)

平岡敏夫 『文学界』と民友社／山路愛山(紅野敏郎ほか編『明治の文学』〔近代文学史Ⅰ〕〔有斐閣選書〕有斐

閣、昭47・6)

川副国基 解説(伊藤整ほか監修『日本近代文学大系』57〔近代評論集Ⅰ〕、角川書店、昭47・9)「凡神的唯心

的傾向に就て」〔唯心的、汎神的傾向に就て〕を収録。「参考文献」「筆者略歴」を付す

久保田芳太郎 注釈(同右)

増井経夫 内藤湖南と山路愛山〔現代日本と中国31〕〔朝日ジャーナル〕第14巻第37号、昭47・9・15) ↓竹内

好・橋川文三編『近代日本と中国』〔朝日選書13〕朝日新聞社、昭49・6。『中国の銀と商人』研文出版、昭

61・2

下沢 剛・広瀬秀雄 久問孝子覚え書き―幕末期天文方の生活―〔資料〕〔科学史研究〕No.103、昭47・11)

山口功二 自助論とメディア自立―山路愛山をめぐる―〔評論・社会科学〕第5号、昭47・12)

*73西田 勝 嶺雲・愛山論争の意味〔法政大学文学部紀要〕No.18、昭48・3)

今中寛司 キリスト教受容三つの類型―小楠・愛山・一敬の場合―(同志社大学人文科学研究所・キリスト教社会問題研究会編『日本の近代化とキリスト教』新教出版社、昭48・8)

市村弘正 解説(市村弘正編『論集・福沢諭吉への視点』りせい書房、昭48・9)「福沢諭吉君及び其著述」〔破格論(福翁自伝を読む)〕を収録

74 田中武夫 山路愛山(信濃毎日新聞社開発局出版部編『長野県百科事典』信濃毎日新聞社、昭49・1) 昭56・3
に補訂版

平岡敏夫 明治ナシヨナリズムと歴史思想―陸羯南・徳富蘇峰・山路愛山・北村透谷―(『伝統と現代』第28号、昭49・7) ↓『統北村透谷研究』有精堂出版、昭46・7

北川 透 愛山再評価のことなど(『文学』第42巻第9号、昭49・9)

大内三郎 日本のプロテスタンティズム(『基督教文化学会年報』No.20、昭49・11)〈プロテスタンティズムの源流と日本〉

北条常久 山路愛山の文芸観(『聖霊女子短期大学紀要』第3号、昭49・12)

75 伊藤正雄 『福翁自伝』はいかに読まれてきたか―山路愛山から佐伯彰一氏まで―(『甲南大学紀要』文学編17、昭50・3)

由井常彦 序(山路愛山著『現代金権史』宗高書房、昭50・3) 明41・5、服部書店・文泉堂書房刊の影印版

*岡 利郎 山路愛山研究序説―「惑溺」と「凝固」―(『北大法学論集』第25巻第4号、第26巻第1、3、4号、昭50・3、7、51・1、3) ↓『山路愛山―史論家と政論家のあいだ』研文出版、平10・11

笹淵友一 北村透谷「内部生命論」 「キリスト教と文学」の方法化の一つの実践(笹淵友一編『キリスト教と

文学』第1集〈笠間選書26〉、笠間書院、昭50・4)

⁷⁶佐藤善也 マシユー・アーノルドと北村透谷―人生相渉論争の―背景―〔立教大学日本文学〕第35号、昭51・

2) ↓『透谷、操山とマシユー・アーノルド』近代文芸社、平9・7

—— 山路愛山(三省堂編修所編)『コンサイス人名辞典 日本編』三省堂、昭51・3) ↓『コンサイス日本

人名事典』改訂版、三省堂、平2・4

田中真人 国家社会主義の思想(国家と社会主義)〔歴史公論〕第6号、昭51・5)

松島栄一 山路愛山(永原慶二・鹿野政直編著)『日本の歴史家』日本評論社、昭51・5)

洞 富雄 パレオ騎馬民族説(洞富雄編)『論集・パレオ騎馬民族説』解説、大和書房、昭51・6) 『日本国民史

草稿』〔上古史総論〕〔日本人民史』を収録

佐藤善也 人生相渉論争の―断面―『明治文学管見』の意図したもの―〔国語と国文学〕第53巻第6号、昭

51・6) ↓『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4

*定平元四良 山路愛山研究(関西学院大学社会学部紀要)第33、34号、昭51・12、52・1)

丸山国雄 解題(山路愛山編)『清河八郎遺著』(続日本史籍協会叢書 第2期第5巻)東京大学出版会、昭51・12)

大2・6、民友社刊の復刻版

⁷⁷佐藤善也 透谷における「快楽」と「実用」―その文学観の源流と背景―〔国語と国文学〕第54巻第2号、昭

52・2) ↓『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4

佐藤善也 「精神の自由」と「文学の本質」―『明治文学管見』の冒険―〔国語と国文学〕第54巻第9号、昭

52・9) ↓『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4

吉田正信 民友社の評価（三好行雄・竹盛天雄編『近代文学』2〈明治文学の展開〉、〈有斐閣双書〉有斐閣、昭52・9）

大久保利謙 山路愛山（日本近代文学館編『日本近代文学大事典』第3巻、講談社、昭52・11）

笹淵友一 「護教」（日本近代文学館編『日本近代文学大事典』第5巻、講談社、昭52・11）

野山嘉正 「独立評論」（同右）

松本三之介 解説（松本三之介編『明治思想集Ⅱ』〈近代日本思想大系31〉解説、筑摩書房、昭52・11）「頼襄を論ず」「日本の歴史に於ける人権発達の痕迹」「独立の判断」「国家主義と個人主義」を収録。「参考文献」「年表」「著者略歴」を付す

今中寛司 民友社平民史論—愛山のSamurai-Christianity—（同志社大学人文研究所編『民友社の研究』〈研究叢書13〉雄山閣出版、昭52・12）

中 皓 民友社の詩歌論—『国民之友』を中心として—（同右）

山泉 進 山路愛山における「国家社会主義」—明治期「社会主義」における「国家」認識への一視角—（『稲田政治公法研究』第6号、昭52・12）

山本幸規 山路愛山と基督教—明治二〇年代を中心として—（『キリスト教社会問題研究』第26号、昭52・12）

78 ——— 山路愛山（古川貞雄編著『郷土歴史人物事典 長野』第一法規出版、昭53・2）

駒ヶ嶺一重 北村透谷における「力」^{フォース}としての「自然」観と「文学」観とについての一考察—山路愛山との比較から—（『弘前学院大学学会誌』第4号、昭53・3）

杉山金夫 山路愛山（静岡新聞社出版局編『静岡大百科事典』静岡新聞社、昭53・3）

佐古純一郎 「文学界」の評論家たちを中心に（『評論集1』〈近代日本キリスト教文学全集10〉解説、教文館、昭53・4）「信仰個条なかるべからず」「凡神的唯心的傾向に就て」「唯心的、凡神的傾向に就て」「詩人論」「近世物質的の進歩」を収録

桶谷秀昭・佐古純一郎（対談） 「人生相渉」論争をめぐって（同右月報）

平岡敏夫 山路愛山（桑原武夫ほか編『世界伝記大事典』5〈日本・朝鮮・中国編〉、ほるぷ出版、昭53・7）

佐藤善也 民友社関係者にとって透谷は敵であったのか（『国文学』第23巻第11号、昭53・9）↓『北村透谷と

人生相渉論争』近代文芸社、平10・4

⁷⁹太田愛人 在野の史家 山路愛山（『明治キリスト教の流域』築地書館、昭54・3）平4・12に中公文庫版

加賀栄治 山路愛山覚え書き―ささやかな集書にちなんで―（『語学文学』第17号、昭54・3）「山路愛山著作目

録（単行本）」を付す。↓『内藤湖南ノート』東方書房、昭62・5

石上良平 山路愛山のこと（『月刊健康』昭54・4）

西田 勝 山路愛山再吟味（『文学』第47巻第4号、昭54・4）↓『近代文学閑談』三一書房、平4・12

現代日本教会史論（その他・明治期の主な名著）（自由国民社編集部編『明治大正昭和の名著・総解

説』自由国民社、昭54・7）

林原純生 正岡子規「俳句革新」への一視点―山路愛山「平民的短歌の發達」をめぐって―（『日本近代文学』

第26集、昭54・10）

千葉真郎 人生相渉論争・序―一八九〇年代の文学争点・その5―（『目白学園女子短期大学紀要』第16号、昭

54・12）

80 工藤英一 初代日本プロテスタントの社会層（『日本キリスト教社会経済史研究 明治前期を中心として』〈日本キリスト教史双書〉教文館、昭55・2）

土肥昭夫 明治初期におけるキリスト教の受容／草創期のキリスト教（『日本プロテスタント・キリスト教史』

〈新教セミナーブック2〉新教出版社、昭55・7）

*川崎 司 山路愛山研究（『静岡県近代史研究』第4、12号、昭55・10、61・9）

第二の故郷 静岡／袋井の風来伝道師

81 山泉 進 近代天皇制への一照射——「天皇制」論と「国体論」——（『歴史公論』第7巻第1号、昭56・1）〈特集

歴史のなかの天皇像〉

中村青史 山路愛山と蘇峰（1）（『熊本近代史研究会会報』第139号、昭56・4）

出原隆俊 透谷におけるドイツ文学評論の受容について——人生相渉論争への一視界——（『国語国文』第50巻第5

号、昭56・5）

中村青史 山路愛山と民友社（『熊本大学教育学部紀要』第2分冊、人文科学、第30号、昭56・9）↓『民友社

の文学』三一書房、平7・12

笠原芳光 イエスは自由なり——山路愛山『耶蘇伝管見』（日本人のイエス観3）（『春秋』第229号、昭56・11）

82 *加賀栄治 山路愛山の中国研究（『文教大学国文』第11、12、14号、昭57・3、58・3、60・3）↓『内藤湖南

ノート』東方書房、昭62・5

佐藤善也 「満足」の意味するもの——人生相渉論争の一齣——（『国語と国文学』第59巻第4号、昭57・4）↓

『北村透谷——その創造的営為』翰林書房、平6・6

- 岡 利郎 山路愛山とジャーナリズム(田中浩編『近代日本におけるジャーナリズムの政治的機能』御茶の水書房、昭57・7)
- 堀井哲夫 山路愛山(谷山茂編『日本文学史辞典』京都書房、昭57・9)
- 松永昌三・関 宏一 山路愛山(平凡社教育産業センター編『日本文学史』平凡社、昭57・9)
- 山泉 進 山路愛山(伊藤友信ほか編『近代日本 哲学思想家辞典』東京書籍、昭57・9)
- 山本幸規 山路愛山(今中寛司編『日本の近代化と維新』ぺりかん社、昭57・9)
- 出原隆俊 人生相渉論争開幕の周辺(『日本近代文学』第29集、昭57・10)
- 佐藤善也 「明治文学管見」の中絶(『立教大学日本文学』第49号、昭57・12) ↓ 『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4
- ⁸³佐藤善也 「国民の精神」とその行方―「明治文学管見」の方法―(『立教大学研究報告(人文科学)』第42号、昭58・1) ↓ 『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4
- 山田博光 『十二文豪』―比較文学的研究―(『帝塚山学院大学日本文学研究』第14号、昭58・2)
- 出原隆俊 透谷における「ハムレット」受容の意味について―人生相渉論争の底流―(『国語国文』第52巻第6号、昭58・6)
- ―― 『現代日本教会史論』(安在邦夫ほか『明治・大正・昭和の名著 総解説』自由国民社、昭58・6)
- 山田博光 民友社の文学―その基礎的研究―(『私学研修』第93号、昭58・7)
- 佐藤泰正 透谷と民友社・序説―「人生相渉論争」を軸として―(『キリスト教文学』第3号、昭58・8)〈特輯 民友社の文学〉

岡 利郎 明治日本の「社会帝国主義」——山路愛山の国家像——（日本政治学会編『近代日本の国家観』（日本政治学会年報 1982）岩波書店、昭58・9）↓『山路愛山——史論家と政論家のあいだ』研文出版、平10・11

福岡哲司 透谷の文学史観（透谷北村門太郎試論4）（『文芸批評と研究』第4号、昭58・10）

岡 利郎 解題（岡利郎編『山路愛山集（二）』（民友社思想文学叢書第2巻）三一書房、昭58・11・15）

大久保利謙 山路愛山についての思い出（同右月報）↓『佐幕派論議』吉川弘文館、昭61・5／平岡敏夫 愛山の魅力（同右月報）

岡 利郎 静岡事件と山路愛山（『静岡県近代史研究会会報』第63号、昭58・12・10）

⁸⁴*佐藤善也 「人生相渉論争」の波紋（『立教大学研究報告（人文科学）』第43、44号、昭59・3、60・2）↓『北

村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4

山本幸規 岡利郎ほか編『山路愛山集（二）』（『新刊紹介』（『同志社時報』No.76、昭59・3）

山本幸規 山路愛山の思想形成と『辯妄』——愛山旧蔵『辯妄』をめぐって——（『文化学年報』第33輯、昭59・3）

佐藤善也 「人生相渉論」の「焼点」——徳富蘇峰と「人生の意義」——（『立教大学日本文学』第53号、昭59・12）

↓『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4

⁸⁵岡 利郎 解題／解説／年譜・参考文献（岡利郎編『山路愛山集（二）』（民友社思想文学叢書第3巻）三一書房、

昭60・2）「収録作品発表年代順一覧」を付す

司馬遼太郎 愛山の周辺（同右月報）／岡 利郎 同時代のみた山路愛山（同右月報）

石上良平・石上瀬子 解説／参考文献について（山路愛山著、石上良平・石上瀬子編『人生・命耶罪耶』影書房、

昭60・3）「人生」「命耶罪耶」を収録

- 坂本多加雄 山路愛山の思想―とくに前半期の活動を中心として（『学習院大学法学部研究年報』20、昭60・3）
- 佐藤善也 「事業」とDoi n g―透谷の弁明とエマーソンの「詩人論」―（『国語と国文学』第62巻第3号、昭60・3） ↓ 『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4
- 山本幸規 山路愛山と日本メソヂスト教会（『キリスト教社会問題研究』第33号、昭60・3）
- 平林 一 民友社文学研究の位相―人生相渉論争を中心にして―（平林一・山田博光編著『民友社文学の研究』三一書房、昭60・5）
- 山田博光 民友社と外国文学―『十二文豪』を中心にして―（同右）『荻生徂徠』『新井白石』を取り上げる）／山崎国紀 山路愛山―その民友社時代の（小説）について―（同右）／平林 一 参考文献（同右）
- 原口 清 山路愛山著、石上良平・石上瀨子編『人生・命耶罪耶』（書評）（『東京新聞』昭60・5・10朝刊）
- 猪野謙二 民友社派の成立（『明治文学史』上、講談社、昭60・6）「山路愛山と「人生相渉論争」の発端」を含む
- 小池善之 袋井と山路愛山・メモ（資料紹介）（『静岡県近代史研究会会報』第81号、昭60・6・10）
- 平岡敏夫 山路愛山著、石上良平・石上瀨子編『人生・命耶罪耶』（書評）（『週刊読書人』昭60・6・17）
- 岡 利郎 山路愛山と「護教」―愛山主筆時代の「護教」論説目録（資料）（『北大法学論集』第36巻第1・2合併号、昭60・9）
- ⁸⁶長江弘晃 山路愛山（キリスト教人名事典編集委員会編『キリスト教人名事典』日本基督教団出版局、昭61・2）
- 井上 弘 明治二十年代における民友社文学の一断面―蘇峰と愛山と透谷との関連について―（『静岡女子大学研究紀要』第19号、昭61・3） ↓ 『近代文学成立過程の研究』有朋堂、平7・1

坂本多加雄 山路愛山の政治思想（『学習院大学法学部研究年報』21、昭61・3）

大久保利謙 徳富蘇峰と山路愛山（『佐幕派論議』吉川弘文館、昭61・5）

平林 一 民友社の文学観―蘇峰と愛山―（『日本近代文学』第34集、昭61・5）

⁸⁷岡 利郎 山路愛山（田中浩編『近代日本のジャーナリスト』御茶の水書房、昭62・2）

編集部 「護教」主筆時代の愛山（復刻版『独立評論1』付録、みすず書房、昭62・5）

山路愛山主筆「独立評論」索引 明治36年1月～6月号（同右）

林原純生 愛山史論における「文学」（『青須我波良』第33号、昭62・6）

編集部 「護教」以前・以後（復刻版『独立評論2』付録、みすず書房、昭62・6）

山路愛山主筆「独立評論」索引 明治36年7月～明治36年12月号（同右）

春山俊夫 湊省太郎と山路愛山のクラスメイト―明治7年小学校卒業生名簿（史料紹介）（『静岡県近代史研究

会会報』第105号、昭62・6・10）

小島直記 論語的立身出世主義からの離脱（『新潮45』第6巻第7号、昭62・7）（特集 人生観の訂正）山路愛

山『明治文学史』を取り上げる

渡部昇一 「世の中」（『随筆家列伝 三宅雪嶺 その10』（『諸君！』第19巻第7号、昭62・7）

小澤勝美 想と実の諸相 人生相渉論争を中心に（『日本文学協会編『日本文学講座』8（評論）、大修館書店、

昭62・11）↓『透谷と漱石』双文社出版、平3・6

編集部 「信濃毎日新聞」と愛山―資料紹介―（復刻版『独立評論3』付録、みすず書房、昭62・11）

山路愛山主筆「独立評論」索引 明治37年1月～明治38年12月号（同右）

福田豊彦 解説（山路愛山著『源頼朝』（東洋文庫47）平凡社、昭62・12）

山路愛山著作目録（復刻版「独立評論4」付録、みずず書房、昭62・12）

山路愛山主筆「独立評論」索引 明治39年1月〜明治39年12月号（同右）

88岡 利郎 解説（山路愛山著『徳川家康』上、〈岩波文庫〉岩波書店、昭63・1）↓『山路愛山―史論家と政論

家のあいだ』研文出版、平10・11

編集部 愛山の教育論（復刻版「独立評論5」付録、みずず書房、昭63・1）

山路愛山主筆「独立評論」索引 明治40年1月〜明治41年11月号（同右）

松島栄一 山路愛山（磯田光一ほか編『増補改訂 新潮日本文学辞典』新潮社、昭63・1）

編集部 「護教」主筆時代の愛山（復刻版「独立評論6」付録、みずず書房、昭63・2）

山路愛山主筆「独立評論」索引 明治42年1月〜明治42年12月号（同右）

山本幸規 山路愛山（日本キリスト教歴史大事典編集委員会編『日本キリスト教歴史大事典』教文館、昭63・2）

編集部 再興「独立評論」の頃（復刻版「独立評論7」付録、みずず書房、昭63・3）

山路愛山主筆「独立評論」索引 明治43年1月〜明治43年8月号（同右）

岡 利郎 山路愛山小伝（山路愛山著『徳川家康』下、〈岩波文庫〉岩波書店、昭63・4）

岡 利郎 民友社史論における歴史と政治（『季刊日本思想史』第30号、昭63・8）↓『山路愛山―史論家と政

論家のあいだ』研文出版、平10・11

岡部隆志 近代の発生・北村透谷論―「人生相渉論争」を読む―（『明治大学日本文学』第16号、昭63・8）

松永昌三 山路愛山（相原光ほか編『日本大百科全書』〈ENCYCLOPEDIA NIPPONICA 2001〉23、小学館、

栗坪良樹 坂本多加雄著『山路愛山』(書評)〈ブックエンド第70回〉(『国文学』第34巻第1号、平1・1)

小島直記 スキな人キライな奴(『経済往来』第41巻第1号、平1・1) ↓ 『スキな人キライな奴』新潮社、平

3・4。平6・6に新潮文庫版。「見事な業績と人柄 山路愛山」と改題

楨林混二 人生相渉論争(『国文学』第34巻第4号、平1・3、臨時増刊〈近代文壇事件史〉)

桜沢一昭 古は猶ほ今の如く―史論家・山路愛山(『隣人』第6号、平1・6)〈特集さまざまな民衆像〉

小林英一 山路愛山(赤羽篤ほか編『長野県歴史人物大事典』郷土出版社、平1・7)

安田常雄 坂本多加雄著『山路愛山』(書評)〈『日本歴史』第49号、平1・7)

藤岡筑邨 解説(荒井武美ほか編『長野県文学全集』第Ⅱ期第3巻〈大正編Ⅰ〉、郷土出版社、平1・11)「木曾

溪」を収録

伊東昭雄 解説―アジアと近代日本(伊東昭雄編著『アジアと近代日本 反侵略の思想と運動』(『思想の海へ

「解放と変革」11) 社会評論社、平2・2) 「支那論」を収録

⁹⁰伊東昭雄 山路愛山の史論について―「支那論」を中心に―(『横浜市立大学論叢』人文科学系列、第41巻第

1・2・3合併号、平2・3)

山泉 進 解説―社会主義事始(山泉進編著『社会主義事始 「明治」における直訳と自生』(『思想の海へ「解

放と変革」8) 社会評論社、平2・5) 「国家社会主義と社会主義」を収録

岡 利郎 解説(山路愛山著『現代金権史』(『現代教養文庫』社会思想社、平2・7) ↓ 『山路愛山―史論家と

政論家のあいだ』研文出版、平10・11

上田喜三郎 山路愛山著『現代金権史』（現代教養文庫）（文庫から）（週刊読書人）平2・9・24

三浦 叶 山路愛山の漢学論（沼尻正隆先生古稀記念事業会編『沼尻博士退休記念中国学論集』沼尻正隆先生古稀記念事業会、平2・11）汲古書院発売

91 齊藤 孝 解説—歴史の思想（齊藤孝編著『歴史の思想 誰が歴史をつくるのか』（思想の海へ）「解放と変革」

27）社会評論社、平3・1）「日本の歴史における人権発達の痕迹」を収録

榎林混二 徳富蘇峰と山路愛山—その影響関係について—（広島女子大学文学部紀要）第26号、平3・2）↓

『明治初期文学の展開』（榎林混二著作集第2巻）和泉書院、平13・2

—— 山路愛山（新潮社辞典編集部編『新潮日本人名辞典』新潮社、平3・3）

永測朋枝 『護教』による人生相渉論争の再検討（『国語国文』第60巻第4号、平3・4）↓『北村透谷—「文

学」・恋愛・キリスト教』和泉書院、平14・8

坂本多加雄 独立・官吏・創業—明治思想史における「政治家」と「官僚」（『市場・道徳・秩序』創文社、平

3・6）

新保祐司 軟文学の中には寝てられない 硬文学再興（『季刊アステイオン』No.21、平3・7）↓『批評の測

鉛』構想社、平4・9

佐藤和彦 解題（佐藤和彦編『論集足利尊氏』（東京堂出版、平3・9）「足利尊氏」を収録

上田 博 愛山・漱石、二つの死（『石橋湛山 文芸・社会評論家時代』三一書房、平3・11）

榎林混二 批評の生成—「国民と思想」試考—（『日本文学』第40巻第11号、平3・11）↓『北村透谷研究』（榎

林混二著作集第1巻）和泉書院、平12・5

黒沢 脩 山路愛山（静岡新聞社出版局編『静岡県歴史人物事典』静岡新聞社、平3・12）

⁹²山崎国紀 明治文学史・他（山路愛山）（山田博光編『民友社文学・作品論集成』三一書房、平4・3）

岡 利郎 現代日本教会史論（愛山）（同右） ↓『山路愛山―史論家と政論家のあいだ』研文出版、平10・11

田中單之 人生相渉とは何か―三好十郎と松尾芭蕉（『磁界』第2号、平4・5）

坂本多加雄 「企業者」観念の発見と日本の伝統（『年報近代日本研究』14〈明治維新の革新と連続〉、平4・10）

↓『近代日本精神史論』（講談社学術文庫）講談社、平8・9

永瀨朋枝 透谷は「軟文学」を代弁したのか（『国語国文』第61巻第12号、平4・12） ↓『北村透谷―「文学」・恋愛・キリスト教』和泉書院、平14・8

⁹³九里順子 「人生相渉論争」の問題―言説の政治性―（『日本文学ノート』第28号、平5・1）

吉田博司 国家社会主義の源流―山路愛山（『近代日本の政治精神』〈RFP叢書2〉芦書房、平5・1）

和泉久子 子規の俳論と崇高（『鶴見大学紀要』第1部（国語・国文学編）、第30号、平5・3）

尾西康允 北村透谷の「崇高」概念（『広島大学教育学部紀要』第2部、第41号、平5・3）「山路愛山の「崇高」概念」を含む

今中寛司 山路愛山（国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第14巻、吉川弘文館、平5・4）

川崎 司 透谷・愛山・明石・坎堂（『日本プロステタント史研究会報告』第49号、平5・7）

伊藤雄志 精神主義の覚醒と《日本への回帰》―山路愛山と井上哲次郎―（『日本思想史学』第25号、平5・9）

坂本千敏 明治人の気概 山路愛山（『経営コンサルタント』第541号、平5・11）〈特集 マスコミを斬る！〉

⁹⁴山肥昭夫 山路愛山（青木和夫ほか編『日本史大事典』第6巻、平凡社、平6・2）

- 伊藤雄志、グラハム・スクワイアズ 日本への回帰—山路愛山1865-1917—〔社会科学研究〕第14巻第1号、平6・3）英文。（英文タイトル＝The Search for Japanese Identity—YAMAJI AIZAN 1865-1917—）
- 榎林滉二 山路愛山（遠藤祐ほか編）『世界日本キリスト教文学事典』教文館、平6・3）
- 榎林滉二 透谷と人生相渉論争—反動との闘い—（桶谷秀昭ほか編）『透谷と近代日本』翰林書房、平6・5）↓
- 『北村透谷研究』（榎林滉二著作集第1巻）和泉書院、平12・5
- 平岡敏夫 山路愛山／人生相渉論争（三好行雄ほか編）『日本現代文学大事典 人名・事項篇』明治書院、平6・6）
- 小宮一夫 山路愛山（朝日新聞社編）『朝日 日本歴史人物事典』朝日新聞社、平6・11）
- 95新保祐司 近代日本文学史骨—透谷を軸として（喜多川恒男ほか編）『二十世紀の日本文学』白地社、平7・5）
- ↓ 『正統の垂直線—透谷・鑑三・近代』構想社、平9・11
- 桜井英史 山路愛山（富田仁編）『事典 近代日本の先駆者』日外アソシエーツ、平7・6）足利尊氏評価の先覚
- 坂本多加雄 近代日本の時間体験 「歴史の終焉」を生きたとは（『季刊アステイオン』No.37、平7・7）↓
- 『近代日本精神史論』（講談社学術文庫）講談社、平8・9
- 川崎 司 透谷・愛山・明石・坎堂—生い立ちと出会い—（高橋昌郎編著）『日本プロテスタント史の諸相』聖学院大学出版会、平7・11）
- 塩入 隆 長野時代の山路愛山—ブルーダム事件を中心にして—（同右）
- 新保祐司 近代日本文学とキリスト教（『日本「キリスト教」総覧』（別冊歴史読本 事典シリーズ26）新人物往來社、平7・12）↓ 『正統の垂直線—透谷・鑑三・近代』構想社、平9・11

—— 山路愛山（日本「キリスト者」人名事典）（同右）

96 森本隆子 山路愛山（静岡近代文学研究会編『静岡県と作家たち 近代の文学誌』静岡新聞社、平8・1）

朝尾直弘 解説（山路愛山著『豊臣秀吉』下、〈岩波文庫〉岩波書店、平8・3）

坂本多加雄 「文士」から「知識人」へ／「人生相渉論争」再考／「言葉」と「歴史」（「知識人」大

正・昭和精神史断章）（20世紀の日本11）読売新聞社、平8・8）

97 西田 毅 山路愛山（近代日本社会運動史人物大辞典編集委員会編『近代日本社会運動史人物大辞典』4、日外

アソシエーツ、平9・1）

沢田泰紳 日本メソヂスト教会史―三派合同を中心として―（同志社大学人文科学研究所編『日本プロテスタン

ト諸教派史の研究』（同志社大学人文科学研究所研究叢書26）教文館、平9・2）

猪狩友一 民友社の〈詩想〉―蘇峰・愛山・湖処子・独歩を中心に（野山嘉正編『詩う作家たち 詩と小説のあ

いだ』至文堂、平9・4）

佐藤能丸 山路愛山（鹿野政直ほか編『民間学事典 人名編』三省堂、平9・6）

—— 山路愛山（日本史広辞典編集委員会編『日本史広辞典』山川出版社、平9・9）↓『日本史人物辞典』

山川出版社、平12・5

小寺正敏 北村透谷における文学と政治の内的関連について―初期文学評論の政治思想的考察―（『兵庫史

学研究』第43号、平9・11）

98 小尾俊人 山路愛山―人間・ジャーナリスト・歴史家として―（『山路愛山伝記選集』第10巻〈西郷隆盛〉、解説、

日本図書センター、平10・1）

小尾俊人 山路愛山略年譜（同右）

田中健夫 山路愛山と『異称日本伝』——史料集からの無断引用は孫引きではないのか——（研究余録）（『日本歴史』第596号、平10・1）

古田芳江 透谷とカーライル——人生に相渉るとは何の謂ぞ——の二背景に関して——（桶谷秀昭ほか編『透谷と現代——21世紀へのアプローチ』翰林書房、平10・5）

小寺正敏 透谷・愛山論争における文学概念と政治思想（『兵庫史学研究』第44号、平10・11）

工藤雅樹 明治期における民間史家の古代史研究——田口卯吉、三宅米吉、竹越与三郎、山路愛山と記紀批判——（『東北考古学・古代史学史』吉川弘文館、平10・12）

楨林滉二 佐藤善也著『北村透谷と人生相渉論争』（書評）（『日本文学』第47巻第12号、平10・12）

⁹⁹杉原志啓 岡利郎著『山路愛山——史論家と政論家のあいだ』（書評）（『週刊読書人』平11・1・29）

杉本邦子 独立評論（『明治の文芸雑誌——その軌跡を辿る——』明治書院、平11・2）

西田 毅 未完のライフワーク『山路愛山』——岡利郎氏の『山路愛山——史論家と政論家のあいだ』を読む（『新刊紹介』（『静岡県近代史研究会会報』第245号、平11・2・10）

飯田泰三 岡利郎著『山路愛山——史論家と政論家のあいだ』（書評）（『図書新聞』平11・2・20）

荻谷信和 山路愛山著『获生徂徠』（『拾貳文豪』第三巻）（『資料』（『近代文学論創』第2号、平11・6）

大内清輝 佐藤善也著『北村透谷と人生相渉論争』（『新刊紹介』（『立教大学日本文学』第82号、平11・7）

谷沢永一 講壇と論壇（『探照燈147』（『解釈と鑑賞』第64巻第8号、平11・8）『講壇と論壇』第1篇を取り上げる

大濱徹也 山路愛山（今谷明ほか編『20世紀の歴史家たち』2（日本編下）、〈刀水歴史全書45〉刀水書房、平

11・11）

小寺正敏 北村透谷の文学史論の行方と国民観—晩年の思想的課題について—（『兵庫史学研究』第45号、平

11・12）

00 紅野敏郎 「青年評論」 田岡嶺雲・北原白秋・正宗白鳥・徳田秋声・浮田和民・坪内逍遙・山路愛山・谷本

富・大町桂月・三宅雪嶺ら（『文芸誌譚 その「雑」なる風景一九一〇—一九三五年』雄松堂出版、平12・1）

—— 山路愛山（湯本豪一編『図説明治人物事典 政治家・軍人・言論人』日外アソシエーツ、平12・2）

岡林伸夫 国家社会党〔ほか〕（『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版、平12・3）

小林利通 新聞論客 山路愛山・桐生悠々・久津見藤村／帝国主義の信者（『日本近代史の地下水脈をさぐる信

州・上田自由大学への系譜』梨の木舎、平12・4）

川崎 司 護教（朝尾直弘ほか編『日本歴史大事典』1、小学館、平12・7）

林えり子 山路愛山の祖母（ご一新・江戸方の女たち）（『三田文学』第69巻第63号、平12・11）小説。↓『江戸

方の女』講談社、平13・3

01 和田 守 山路愛山（朝尾直弘ほか編『日本歴史大事典』3、小学館、平13・3）

* 若谷信和 山路愛山「頼襄を論ず」（『近代文学論創』第4、5号、平13・6、14・6）

小股憲明 山路愛山（桂島宣弘ほか編『日本思想史辞典』ペリかん社、平13・6）

今中寛司 山路愛山（白井勝美ほか編『日本近現代人名辞典』吉川弘文館、平13・7）

紀田順一郎 山路愛山（『ペンネームの由来事典』東京堂出版、平13・9）

- 近藤裕樹 明治期「同情」思想における一考察—山路愛山をもとにして—〔文化史学〕第57号、平13・11〕
- 池田智文 近代日本における在野史学の研究—山路愛山の史学思想を中心に—〔龍谷大学大学院文学研究科紀要〕第23集、平13・12〕
- ¹⁰²秋山 駿 出て来い、内田魯庵や山路愛山（批評の透き間9）〔季刊文科〕第21号、平14・4〕
- 岩崎允胤 安井息軒のキリスト教理批判—「弁妄」について—〔日本近代思想史序説「明治期前篇」〕上、新日本出版社、平14・5〕
- 堀竹忠晃 「義仲論」（芥川龍之介）試論—高山樗牛、山路愛山との関連から—〔論究日本文学〕第76号、平14・5〕
- 山路愛山（秦郁彦編『日本近現代人物履歴事典』東京大学出版会、平14・5）
- 川崎 司 山路愛山（大貫隆ほか編『岩波キリスト教辞典』岩波書店、平14・6）
- 高坂盛彦 遊学時代／民友社時代／修史家時代（『ある明治リベラリストの記録—孤高の戦闘者 竹越與三郎伝』〈中公叢書〉中央公論新社、平14・8）
- 出原隆俊 透谷と鑑三・透谷と愛山の側面 付・人生相渉論争関係年表（藪禎子ほか校注『キリスト者評論集』〈新日本古典文学大系 明治編26〉（岩波書店、平14・12）「現代日本教会史論」を収録。脚注・補注を付す
- 北川 透 〈無絃の大琴〉とは何か—北村透谷の問い—（同右月報）／川崎 司 透谷・愛山・明石・坎堂—
How I Became Christian—（同右月報）

付記

今回、戦後分のみ掲載としたのは、戦前分は調査（特に現物確認）が進んでいないことと、紙幅の関係からである。調査不足のため、遺漏した文献も多いと思われるが、御寛恕いただきたい。

主な先行参考文献目録には次のものがある。

・ 師井キヌエ 山路愛山資料年表（昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』第16巻、昭和女子大学光葉会、昭36・2）

・ 大久保利謙 参考文献（大久保利謙編『山路愛山』〈明治文学全集35〉筑摩書房、昭40・10）

・ 岡 利郎 参考文献（岡利郎編『山路愛山集（二）』〈民友社思想文学叢書第3巻〉三一書房、昭60・2）

・ 石上良平・石上瀬子 参考文献について（山路愛山著、石上良平・石上瀬子編『人生・命耶罪耶』影書房、昭60・3）

本目録の作成にあたっては、以上のほか『年刊人物文献目録』（日外アソシエーツ）、『国文学年鑑』（国文学研究資料館）などの二次資料を参考にした。

最後に、本目録作成のきっかけを与えてくださった聖学院大学の川崎司氏に感謝の意を表したい。